第2章 1 基本的な考え方

第2章 「新たな目黒区民センターの基本構想」策定に向けた基本的な考え方

1 基本的な考え方

中間のまとめの公表以降実施した意見募集やワークショップなどでは、様々な意見やたくさんの アイディアをいただきました。区では、これらの貴重な意見等をできる限り実現させる可能性を高 めるため、これまで取りまとめてきた「未来像(コンセプト)」の実現に向けて、「はぐくむ、は たらく、まなぶ」などの区民活動を支える機能に対応できる施設整備の方向性を含めて、以下に示 す基本的な考え方をもとにして今後の取組を進めていきます。

なお、具体的な個別の施設機能や空間構成、民間活力の活用、運営などについては、基本構想の 策定に向けて、意見等を踏まえてさらに検討を深めていきます。

未来像(コンセプト)

「未来とつながる 人とつながる 新たな自分とつながる」"できる"が広がる創造空間



<施設整備の方向性>	<民間活力の活用>	<集約施設>
以下の敷地を含め、学校と一体的に建替え。 ・区民センター ・美術館 ・区民センター公園 ・下目黒小学校	施設サービスの向上や新たなサービス提供に向け、建設及び運営において民間活力を高い割合で活用します。	以下の施設機能を対象として検討 を進めます。 ・男女平等・共同参画センター ・青少年プラザ ・下目黒住区会議室

2 今後検討を深めていくこと

新たな目黒区民センター整備に向けて、前ページで示した「基本的な考え方」をもととしながら、次のとおり整備手法、整備敷地範囲、導入する機能の課題について都市計画上の制約を踏まえてどのように実現するかを検討する必要があります。これらは相互に関係する要素であることから、それぞれの検討を総合的に進めていきます。

なお、区民意見やワークショップで多様な意見等をいただきましたが、課題の解決を含めて、今後、取組を進めていく中でその具体化に向けた検討を深めていく必要があります。

(1) 整備手法

効果的、効率的

な整備

・諸課題への対応

建物・設備面、施設運営面(H30年度「課題整理」より)に着目し、その両面における課題解決を図る。

・将来にわたる区民の活動水準の向上 主体性・共有性を促進し、多様性や柔軟

主体性・共有性を促進し、多様性や柔軟性に富んだ施設として生まれ変わり、目 黒川や区民センター公園など周辺環境を最大限活かしながら成長していくための 拠点として活かしていく。

・将来にわたる財政負担軽減施設整備やその後の運営も含め、あらゆる面で民間活力を活用するなど、将来にわたり割合や額も含めて区の財政負担を軽減する手法を取り入れていく。

リーディングプ ロジェクトとし て求められる効 果

今後の区有施設見直しのモデルケースとなる本取組では、複合化や多機能化、集約化による持続可能で効率的な施設サービスの提供、将来にわたり利用し続けられる空間の提供、維持管理経費の抑制に向けた延床面積の縮減などをスピード感をもって実現することで、今後の施設見直しにも波及させる取組としていく。

(2) 整備敷地範囲

美術館

- 区民センターとの連携や効率的な維持管理、区民センター公園や目黒川と近接しているという環境を活かした運営等の面における課題解決を図る。
- ・新たな区民センターの未来像(コンセプト)実現に向け、美術館が、複合施設全体で主体性・共有性を促進していく役割を今まで以上に果たすことで、事業や空間を含めて相互に活かし合い、「文化の香り高いまちめぐろ」の推進に資する。

区民センター 公園

- ・開設から40年以上がたち、目黒川整備の進行や田道ふれあい広場公園の設置、全区的イベント会場としての実績など環境変化を受けとめながら、未来志向で臨んでい
- ・新たな区民センターの未来像(コンセプト)を多様に実現させていくため、「いこう・やすらぐ・つどう・つながる」機能の拠点を担うことのできる公園空間を、区民センターと公園内施設の見直しを合わせて具体化していく。

下目黒小学校

- ・現在の校舎は築55年(昭和39年築)が経過し、建替えの検討が必要であることを踏まえる。
- 近年の児童数の増加により、今後の教室数確保の課題をはじめとした放課後の多様な居場所の確保などへの対応を踏まえる。
- ・築年数からも更新の検討に入っているタイミングを捉え、近接する区民センターを 含めた一体の範囲での機能の有効活用を図る視点を持つ。

9

(3) 導入する機能

機能の融合化

次の諸点に留意しながら、具体策をまとめる。

- ・ 多用途に利用できる空間づくり
- ・ 類似事業を効率的に展開する
- 貸室機能の集約化・融合化と柔軟な利用の工夫
- 効率的な施設運営に向けた庁内体制の具体化

全体での空間づくりの実現を図っていく。

• 民間との役割分担で有効性を高める

周辺施設機能の 集約化

周辺施設のうち、区民活動スペースとしての貸室機能などを有し、集約化、融合化を進めることで新たな区民センター全体でさらに効果的、効率的なサービスを提供し、魅力向上が見込まれる施設となるように、以下を検討対象に含めていく。また、以下施設を集約化・融合化した後の跡地活用についても、併せて検討を進めていく。

・男女平等・共同参画センター (男女の平等な共同参画、性の多様性の尊重の課題解決に向け、区民や事業者と の連携)

・ 青少年プラザ (現行社会教育館との機能連携、児童館機能との有機的な連携強化など、多世代 にわたる「まなぶ、はぐくむ」等の機能を担うことが可能)

・ 下目黒住区センター内住区会議室等 (コミュニティ活動拠点を学校と同一の場に設置することによる地域拠点化)

効果的、効率的 な空間利用

・新たな区民センターの空間づくり それぞれの施設ごとにあり方等の検討を進めるのではなく、新たな区民センター

・機能融合の方向性 既存の設置目的や施設担当所管の枠にとどまらず、より多くの方が、より多くの 活動を発見できる充実した空間づくりの実現を図っていく。

• 新規施設の導入

(財源確保の観点も含め、生活拠点機能や多様な経済効果を生み出す機能などの誘導を含めて区として総合的に検討していく。)

サウンディング調査

(民間事業者の意見、アイディアを聴きながら民間活力を活かし、事業実現性を高めていく。)

•エリアマネジメントによるまちづくり

(地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための住民、事業主等による主体的な取組の促進ができるようにしていく。)

・地域への影響の大きさを踏まえた今後の地域全体でのまちづくりの促進を多角的に検討していく。

区民センター 公園、目黒川を 活かした空間

民間活力の活用

いつの時期でも目黒川に親しみをもち、また公園も含めて自然に触れることのできる 一体の空間により、さらなる区民センターの魅力向上を図っていく。

10

(4) 都市計画上の課題への対応

・用途地域等 (現在第二種住居地域。整備できる施設の用途や規模など制限がある。)

・ 高度地区 (既存の区民センター高さは38.2m、現在の高さ制限は20mである。)

敷地の有効活用 に向けた留意点

- ・開発行為 (開発行為を行う場合、公共施設(道路、公園等)の整備等が義務付けられる。)
- ・公園の活用 (都市計画公園であり、公園内に整備できる施設に一定の制限がある。)
- ・水害ハザードマップ (地下利用や機能のフロアー配置には留意する必要がある。)
- 水路 (区民センター公園地中に水路がある。)

新たな区民セン ター整備とまち づくり

- 整備においては、周辺地域との関係において、利用者と地域住民が安全・安心とともに親しみを感じられる拠点となっていくことが望まれており、また将来を見据えた目黒駅周辺のまちづくりと連携していく視点も不可欠である。
- 区民センターの地域の皆さまとともに歩んでいけるように、生活に身近な範囲を単位としながら、周辺道路や建築物の建て方、高さなどについて、地域におけるまちづくりの視点も踏まえながら総合的に検討を進めていく必要がある。

第2章 3 今後の取組

3 今後の取組

今後、基本構想策定に向けて、主に以下の事項について検討を進めていきます。

- 各機能の運営、運用
- 各機能の規模、仕様
- 周辺まちづくりとの連携
- 事業スケジュール検討 など

なお、本取組は、今後も区民の方々のご意見を伺いながら進めていきます。

今後、基本構想(素案)の作成に取り組んでいきますが、その過程においても、随時ご意見をい ただきながら進めていきます。

ご意見は、基本構想(素案)の作成過程において、以下のメールアドレス、FAXでお受けしていますので、いつでもお寄せください。

メール : r-kuyusisetu-project@city.meguro.tokyo.jp

FAX : 03-5722-6134